

『心の四季』

ひと せつ
人に接するときは

べんきょう しごと
勉強(仕事)をするときは

かんが
考えるときは

じぶん む
自分に向かうときは

あたた はる こころ
暖かい春の心

も なつ
燃える夏の心

す あき
澄んだ秋の心

きび ふゆ
厳しい冬的心

寺子屋・こども論語教室主宰 新田 修

新学期がスタートしました。

保護者の皆様も・塾生のみんなも気持ちを切り替え、心新たにそれぞれの目標に向かってスタートしたことを思います。

先月の論語教室で私は皆さんに、「被災地で辛い思いをしている多くの人達に対して、今、何ができるのかを春休みに家族で一度、是非、話し合ってほしい。人は一人では生きていけません。多くの人の支えがあって初めて生かされているということを、皆さんは重く受け止めてほしいと思います。」と話しましたが、何か答えが見つかったでしょうか。

ところで冒頭の言葉は、私が現役時代の平成15年、夏の全国高等学校総合文化祭弁論大会で福井県小浜市を訪れた際、ホテルに戻る途中でふと目に止まった小さなお寺の案内板に書かれていたものです。流れ落ちる汗も拭かず、時の経つのも忘れてこの言葉を読み返し夢中でメモをとったことが、つい昨日のこのように思い出されます。

人に疲れ、物事がうまくいかない時、人はしばしば体調を崩します。時の流れに竿さすこともできず、流されていく自分の無力を感じる時、それはまた自分の心を見失っている証拠でもあり、そんな時は人への優しさも、勉強(仕事)への意欲も乏しくなっていくものです。

私は芹洋子の「四季の歌」が大好きで、この歌を聴くと心が休まります。萌え出ずる春の生命力を、強い夏の日差しに耐える体力を、思索にふける秋の静かな心を、冬の凍る心を暖める優しさを身につけたいものです。日本の四季は人の心を随分癒してくれますが、それはまた人の生き方にも示唆を与えてくれるようにも思えます。

塾生には少々難しい表現になってしまいましたが、親子で冒頭の言葉を心に留めてこの一年を送ってほしいと願っています。

お知らせ

1. 皆様からの募金は5,459円でした。ご協力ありがとうございました。なお、世話人会として5,000円を募金しましたのでご報告致します。
2. 次回の号令を掛ける塾生(プリント参照)は、家で練習し当日、先生に名前を呼ばれたら大きな声でお願いします。
3. 個人情報保護法の守秘義務を厳守しつつ、緊急時に備え近く名簿を作成したいと思います。その節はご協力のほど宜しくお願い致します。
4. 風邪その他の理由で欠席される場合は、ご面倒でもあらかじめ世話人会代表の高島篤氏(090-1385-6089)へ連絡をお願いします。